

消防団で活動してみませんか



「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神に基づいて活動する消防団は、火災や震災、台風等の風水害における活動、また、地域住民を対象とした防災啓発など、地域における消

防・防災の中心的存在です。

上三川町消防団は昭和30年に発足して以来50年を迎えます。今回は消防団の現状について紹介します。

● 消防団の歴史

消防団の祖先は、時代劇などによく出てくる江戸時代の「町火消し」です。これが、明治時代になると「消防組」となり、戦争が激しくなってきた昭和14年に防空の任務が加わり「警防団」となりました。戦後、平和国家の消防として「消防団」となり再出発しました。

上三川町消防団は昭和30年4月29日の町村合併により、本郷村消防団・上三川町消防団・明治

村消防団が統合し、消防団員948名10分団で設立されました。昭和44年には、石橋地区消防組合消防本部（上三川町、南河内町、石橋町、国分寺町、壬生町の5町）の設置や、昭和52年には現在のベースとなる本郷、明治、上三川の3つの分団に分かれ3分団22部334人になりました。

さらに社会経済情勢の変化に合わせて、平成8年度に組織を4分団12部250人に統合しました。

上三川町消防団の分団及び部の区域

団長	副団長	分団名	分団長	副分団長	部名	部の区域	定数
1	2	本部	1	1	—	団長・副団長 町内全域	3 8
		1分団	1	2	第1部	大字東蓼沼、大字西蓼沼	15
					第2部	大字東汗、大字上文挾、大字西木代	15
					第3部	大字西汗（本郷台、美里）、大字磯岡	19
					第4部	大字上郷、しらさぎ（並木）	22
		2分団	1	2	第1部	大字上三川のうち大町、上町、下町、中町、愛宕町、しらさぎ、雇用促進住宅、大字上蒲生のうち上町、峰町、日産独身寮、日産管理棟	26
					第2部	大字上三川のうち東館、井戸川、桃畑、睦淵	15
					第3部	大字坂上、大字三村、大字五分一、大字三本木、大字上三川のうち三ツ家、常光坊	24
					第4部	大字上蒲生のうち上蒲生北・南、願成寺、日産家族アパート、大字下蒲生	16
		3分団	1	2	第1部	大字大山、大字鞘堂、大字梁	22
					第2部	大字多功、天神町	22
					第3部	大字石田	14
					第4部	大字川中子、大字下神主、大字上神主、ゆうきが丘	20

●消防団の位置づけ

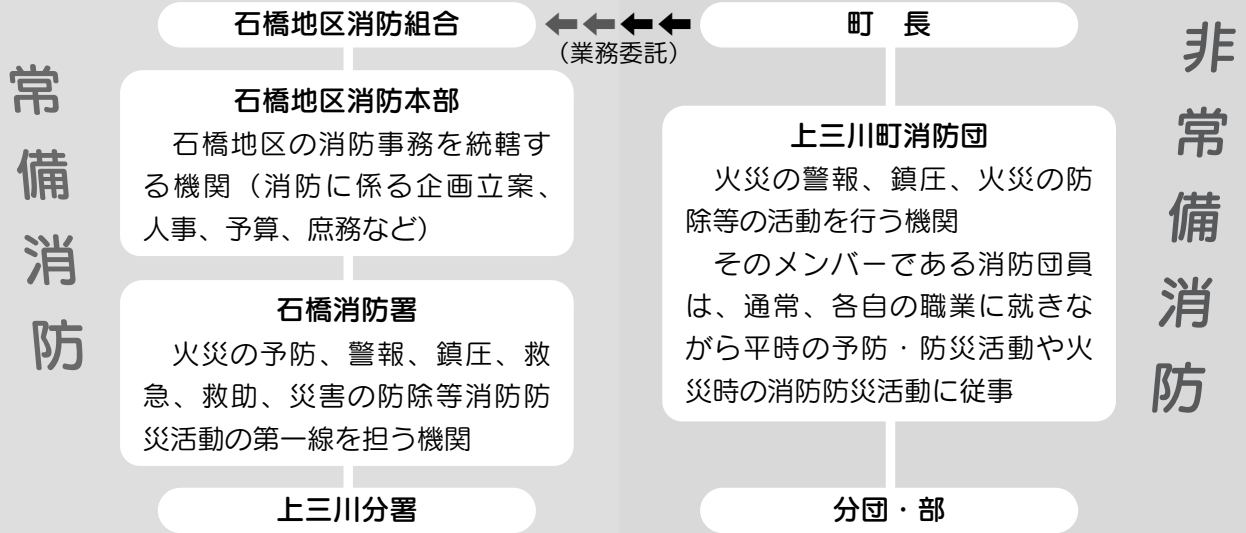
消防の業務には、大きく「常備消防」と「非常備消防」の2つに分かれます。

消防の仕事を専門に行う「常備消防」と、普段各自の仕事をしながら、火災や災害が発生した時に出動をする「非常備消防」に分かれます。町消

防団は、「非常備消防」で、予防や防災、火災時の消防防災活動に従事します。

火災発生時の初期消火、残火処理等を行っているほか、大規模災害時には、災害防ぎよのため、多数の消防団員が活躍しています。

上三川町消防の概要



●消防団の教育訓練体制

消防団は、4月の辞令交付式に行われる新任部長や新入団員の規律訓練を始め、様々な訓練が行われています。年2回、機械器具の整備状況が正しく行われているかを検査する、機械器具の管理調査。台風等の水害時に対応するための水防訓練、機械器具を正しく扱うための放水訓練（年2回）、地域住民の協力を得て実施する消防演習（年1回）等を、年間通して行っています。

また、ポンプ操法については、毎年7月に競技会を行い、日頃から団員一致協力し団結力を高めるとともに、実践に素早く対応できるよう訓練に励んでいます。

町内だけでなく実際に栃木県消防学校にも入校し、消防技術の知識や技能の修得、専門的な教育訓練も受けています。

また、近隣の市町村では、女性の消防団への参加も増えています。一人暮らし高齢者宅への防火訪問や、応急手当の普及指導などにおいて、女性の優しさや細かな配慮を活かして活躍しています。



機械器具管理調査の様子



ポンプ操法大会で練習の成果を披露する消防団員

●消防団の活動内容

消防団は、仕事を持ちながら、「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神に基づき、地域の安全と安心を守るために活動しています。

消防団員は、消防・防災に関する知識や技術を習得し、火災発生時における消火活動、地震や風水害といった大規模災害発生時における救助・救出活動、警戒巡視、避難誘導、災害防ぎよなど、地域住民の生命や財産を守るために活躍しています。また、災害がないときでも、訓練のほか、応急手当の普及指導、住宅への防火チラシの配布、特別警戒、広報活動など、地域における消防力・防災力など重要な役割を担っています。

●地域の守り手として

社会経済情勢の変化により、消防団を取り巻く環境も変わり、地域によっては消防団員の高齢化や、団員が減少しています。最も大切なのは皆さんの消防団活動に対する理解と協力であり、一人ひとりが地域の安全に対して関心を持つことです。

自分たちのまちを自分たちの手で守るため、これからもより多くの方が消防団に参加し、新しい守り手として活躍されることを期待しています。



石橋地区消防組合との合同の消防演習



消防演習終了後、整列する消防団員



消防団通常点検時の機械器具点検

消防団活動にご理解ご協力を…

～消防団長に聞きました～

町消防団長の野沢一夫さんに話を伺いました。

野沢団長は、「現在の消防団は非常に厳しい状況に置かれています。昔と違い、地域の拡大化や社会状況の変化などで団員の確保などが非常に難しくなっています。常備消防（消防署）も充実しているが、いざ災害発生した時には、消防団は地域にとって必要な力になるはずですよ。」と実情を話してくれました。



また、「消防署などの常備消防とは違い、会社勤めや農業、商売など普段仕事を持っている人たちが活動しています。消防団活動について、今後とも、地域の皆様のご理解とご協力をお願いしたい。」と地域の力の必要性を話してくれました。



消防団の一斉放水

▼問い合わせ先＝総務課 交通防災係 ☎ 9115